介護保険法「改正」で 高齢で病気もつ人の電動ベッド 取りあげるのではなく 札幌市は 独自助成を

"ベッドが引き上げられ涙が出ました"

妻の証言もとに質問

市民の願いとどけ 人のいのちが大切にされる市政めざします

日本共産党市議会議員

伊藤 りち子

市議会議会議員となり三年八ヵ月。私は〝人の命が大切にされる市政〟実現をめざし、わかりやすい質問に心がけてきました。市民の願い、切実な声をひき続き市議会に届けます。

第三回定例市議会で、伊藤りち子市議は、介護保険法の改正で介護ベッドなどの貸与が受けられなくなった、要介護度一以下で軽度の高齢者の切実な声を取り上げて質問しました。

保健福祉部長は、三月時点で二、一七九人が貸与を受けている電動ベッドは、「十月には、ほとんどが受けることができなくなった」と答弁しました。

伊藤議員は、ベッドを取り上げられた人は、高い費用でレンタルするか購入、または利用をあきらめるという選択を迫られていると指摘、ベッドを引き上げられるときに「思わず涙が出た」という事例や、福祉用具レンタル業者から聞き取りをした、電動ベッドを引き上げられた多くの方の事例を示し、札幌市として実態調査を行うこと、国に対して制度改善を求めること、自治体独自の助成制度を設けるよう求めました。

施設で懇談する伊藤りち子市議。右はかわべ竜二白石区道政対策委員長

収入増えずに増税↓増税ゆえに負担増 たまりません

福祉除雪利用料の据えおき迫る

伊藤りち子市議は、今回の税制「改正」で、所得一二五万円以下の六五歳以上の高齢者の非課税措置が廃止され課税されたことに伴い、福祉除雪制度の利用料が、今まで五千円だったものが一万円と倍の負担となる世帯が利用者の約一割になるとの答弁を受けて、「収入が増えずに負担増が相次いでいる高齢者に配慮し、非課税から課税世帯に変わっても利用額を五千円に据えおくべき」と求めました。

札幌市の保育所待機児童が倍加 子育て支援の充実は政治の責任です

札幌市の保育所待機児童は、二〇〇四年度は約一五〇人でしたが、二〇〇五年、二〇〇六年度と二年連続して四月時点で三〇〇人を超え、二倍になっていました。その大きな要因のひとつは、保育所整備に関わる国の財政措置が二ヵ年事業で行われていたことがあげられます。

政府交渉で伊藤市議は、単年度で財政措置を行うよう求めました。平成一八年度については、保育所整備費は単年度で財政措置されました。